



コンテストで最優秀賞  
に選ばれた工藤さん

## 日本語スピーチコンテスト

# 工藤さん(能代)最優秀賞

## 秋田市、学びの苦勞語る

外国人による日本語スピーチコンテストが7日、秋田市山王の県生涯学習センターで開かれた。ベトナムや中国、ドイツなど10カ国から計15人が参加し、日本で暮らして感じたことや祖国への思いなどを語った。秋田ユネスコ協会(小林建一会長)の主催。最優秀賞に選ばれたのは、

能代科学技術高校1年の工藤俊博さん(16)＝能代市。工藤さんは日本生まれだが、中国残留孤児3世の父と中国人の母の元で育った。両親は日本語が不自由で、家庭で日本語に触れる機会が少なかったため、自分も言葉の間違いをほかにされたり、誤解されたりすることがあつた。



外国人ら15人が日本で暮らして感じたことをスピーチコンテスト

学校のお知らせの内容を工藤さんが親に説明したり、代わりに返事を書いたりすることもあったという。工藤さんは小学4年生の時に能代市の日本語教室に通い始め、徐々に日本語や日本文化への学びを深めた。日本語からなかなかつらくなると、本語が分からないはずがないと思われることもある」と、工藤さん。「外国人の子どもがいじめられたり、勉強が分らなくなったりするときに支援できるようになりたい」と将来の目標を語った。このほか、県内の大学などで学ぶ留学生は、コロナ禍で来日が延期になったり、オンライン授業に苦勞したりしたという体験を発表。「日本に来てからあいさつの習慣が身に付いた」「日本語を学び、夢に向かって努力する大切さを知った」などと話し参加者もいた。

コンテストは、県内で暮らす外国人の日本語学習意欲の向上や、相互交流の促進を目的に開いている。昨年は新型コロナウイルスの影響で中止したため、2年ぶり2回目の開催。(佐藤悠大)